



**うみがたりと連携した  
児童生徒の学びの場所**  
ストラットン恵美子(久比岐野)



問／日本海側・新潟県内初の不登校特例校設置を積極的に進めるべきではないか。

答／当市の不登校児童生徒の現状は増加傾向にあり、特例校も有効な取り組みの一つとして、先進地域の視察を予定している。その効果について情報収集し、検討を進める。

問／旧古城小学校の校舎を活用し、うみがたりと連携することで、アニマルセラピーやキャリア教育の効果も期待できると考えるがどうか。



上越市立水族博物館うみがたりのマゼランペンギン

答／検討の際、議員提案の考えも参考にする。

**上越市「子育て全国一」を目指して**

問／地域限定「子育て利用券」発行の考えは？

答／行政と地域、市民活動団体等が連携して子育て支援に取り組んでおり、考えてはいない。

問／妊産婦タクシー利用助成制度を導入しては。答／妊産婦の経済的負担軽減に向け、各種施策に取り組んでおり、制度導入は考えていない。

**患者と社会を繋ぐアピランスクエアの重要性**

問／がん治療による外見の変化を補完するウィッグや補整具の購入費用助成の考えはないか。

答／現時点では考えていないが、他の自治体の情報を収集し、研究を続ける。



**広域周遊観光と  
サイクルツーリズム**  
江口 修一(久比岐野)



問／こがね丸就航を受けた観光施策はどうか。

答／観光客の増加を見込み、長野・中京圏へのPR強化に加え、関西への取り組みを検討する。宿泊支援など、市内経済への波及に意を用いる。

問／サイクルツーリズムの活発化を受け、市が中心となつて、「久比岐自転車道」を活用した広域周遊観光を進めるべきだ。

答／県と上越三市が連携して、サイクルツーリズムに取り組んでいる。令和4年からは「糸魚川・上越・妙高SEA TO SUMMIT」のコースとして、知名度の向上にも取り組んでいる。今後は、事業効果の検証を行うほか、自転車と鉄道との連携や、より広域的な地域を対象としたサイクルツーリズム、市内観光における移動手段としての可能性などについて、調査・研究を進めていく。



こがね丸就航



東京より日本横断のサイクリスト達



直江津海岸の夕日を堪能



**「空き家終活ノート」  
をホームページに！**  
杉田 勝典(公明党)



問／空き家対策として、専門相談窓口などを掲載した「空き家終活ノート」を市のホームページからダウンロードできるようにしてはどうか。

答／将来、空き家が発生しないよう意識啓発を図る上で有効なツールと認識しており、研究を進めたい。

**越後田舎体験事業の発展を期待！**

問／令和5年度から、事務局が上越観光コンベンション協会に移管された。農家民宿等の受入れの実情、事業発展の可能性はどうか。

答／農業や雪国生活を中心とした新たな体験メニューなど、魅力的な商品の開発に加え、企業研修や外国人観光客、市内小・中学生などの新たな顧客獲得に取り組んでいきたい。

**不登校特例校を当市に設置してはどうか！**

問／不登校児童生徒の実態はどうか。また、不登校特例校の設置について、やすづか学園との関連も含めて、考えを聞きたい。

答／令和4年度の小中学校の不登校児童生徒は速報値で328人。不登校特例校設置について検討を進めている。不登校特例校は児童生徒の学びの場の確保を目的とする一方、やすづか学園は居場所の確保を目的とする施設であり、両者の連携を図ることが重要と考えている。